

PLOT2XDW (PLOT/DocuWorks 変換ソフト) 簡易マニュアル

PLOT データとは

DXF, DWG, HP-GL, HP-GL/2, OFI, ラスター (多数) のことです。

XDW データはベクター形式 (文字検索が可能) です。



Kernel Computer System
カーネルコンピュータシステム株式会社

本社：パッケージ販売部
〒221-0056
横浜市神奈川区金港町 6-3 横浜金港町ビル
TEL：045-442-0500 FAX：045-442-0501
URL：<http://www.kernelcomputer.co.jp>

特 長

- ・ GUI から入出力ファイルと設定パラメータを設定して DocuWorks へ変換します。
- ・ コマンドラインから入出力ファイル名をキーインすることで実行することも可能です。
(設定パラメータは属性パラメータファイルと変換オプションパラメータで設定します。)
- ・ DXF, DWG, HP-GL, HP-GL/2, OFI を DocuWorks Printer を利用して DocuWorks へ変換します。
- ・ ラスターを DocuWorks へ変換します。
- ・ HP-GL, HP-GL/2, OFI の文字データは XDW データにも文字データとして反映するため、文字検索が可能
- ・ フォルダ内のファイルを一括変換することが可能。
- ・ 実行時各入出力フォーマットの属性パラメータやオプションパラメータを設定できます。
(多数の属性パラメータと変換オプションパラメータは用意されております。)
- ・ 出力可能なフォーマット
XDW (モノクロ、カラー)
 - ・ DocuWorks7.0 以降がインストールされている場合は 2A0 サイズまで出力することが可能。
 - ・ DocuWorks6.x がインストールされている場合は A3 サイズまで出力することが可能。
- ・ マルチページ/シングルページ処理。
- ・ 縮小 (スケーリング)、オフセットの処理
- ・ アノテーションの貼り付けが可能
- ・ 見出し・ページ番号を付加することが可能
- ・ 入力ファイルを出力された XDW ファイルに添付ファイル化が可能
- ・ 出力された XDW データにセキュリティ設定が可能
- ・ 出力結果 (XDW, ログファイル、任意メッセージ) を指定メール先に配信することが可能
- ・ 自己解凍形式の XDW の生成
- ・ 入力データがラスターの場合、制限サイズを超えるデータを復元可能な状態で縮小して出力することが可能。
(解像度自動調整)
- ・ 入力データがラスターの場合は OCR 処理を行うことが可能。
(OCR 処理を行うことで作成した DocuWorks から文字検索が可能になります。)

注 意 事 項

- ・ DocuWorks Printer を使用して DocuWorks 変換を行っていますので、DocuWorks Ver6 以上がインストールされている必要があります。(8.0.3 は除く)
- ・ DocuWorks Viewer Light は不可。

動作環境

対応 OS

Windows XP/Vista/7/8/10/Server 2003/Server 2008
Server 2012/Server 2016

サポート可能な入力フォーマット

ベクターデータ	ラスターデータ
<ul style="list-style-type: none">• DXF• DWG• HP-GL• HP-GL/2 (HP-RTL 含む)• OFI (ラスター含む)	<ul style="list-style-type: none">• TIFF (非圧縮, PackBits, G3, G4, JPEG)• Sun Raster (非圧縮, MMR, RLE)• FAX (MR (G3), MH (G3))• BMP (非圧縮)• PNG• XWD• MIE~L• IOCA (非圧縮, MMR, IBM-MMR)• CALSG4 (type1, type2 (tiled))• EDMICS (RLC, MMR)• JPEG• PCX• FX-MMR (XEROX RASTER)• TOS_FILE (NS90:MMR)• FORMTEK• NSXPRESS• CCRF (Calcomp) <p>その他 EXIF, PBM, PCD, TGA, WMF, FlashPix など多数をサポートしています。</p>

※ DWG, DXF ファイルでは制限事項があります。
詳細については「制限事項 (24 ページ)」を参照願います。

価 格

標準価格 : 35 万円 (税抜き)

操作方法

PLOT2XDW は、GUI から変換することもコマンドラインから実行することも可能です。

GUI 操作方法

DocuWorks Printer 名
DocuWorks Ver6 以降がインストールされている場合はここに DocuWorks Printer 名が表示されます。何も表示されない場合は DocuWorks Ver6 以降がインストールされているか確認してください。

フォルダ指定
フォルダ一括変換を行うときはチェックします。

**変換ファイル名
出力ファイル名**

ページ設定
マルチページ/シングルページを選択します。

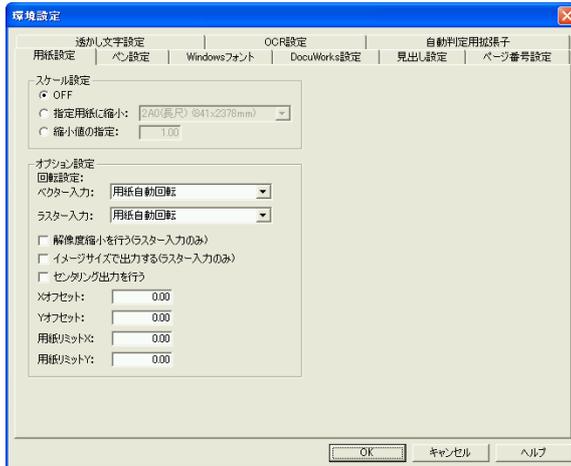
**ログファイル名
XML ログファイル名
履歴ファイル名
XML 履歴ファイル名**

The screenshot shows the PLOT2XDW Ver3.0.0 application window. It features a 'プリンタ名' (Printer Name) field with 'DocuWorks Printer' entered. Below it is a checkbox for 'フォルダを指定する' (Specify folder). There are fields for '変換ファイル名' (Conversion file name) and '出力ファイル名' (Output file name), both with '参照...' (Browse) buttons. A 'ページ設定' (Page settings) section includes radio buttons for 'マルチページ(同名ファイルに上書き)' (Multi-page, overwrite), 'マルチページ(同名ファイルに合成)' (Multi-page, merge), and 'シングルページ' (Single page), along with a 'ページ番号の桁数' (Number of digits for page number) field set to '1'. At the bottom, there are fields for 'ログファイル名' (Log file name), 'XMLログファイル名' (XML log file name), '履歴ファイル名' (History file name), and 'XML履歴ファイル名' (XML history file name), each with a '参照...' button. On the right side, there are buttons for '変換開始' (Start conversion), '環境設定' (Environment settings), '終了' (End), 'キャンセル' (Cancel), and 'ヘルプ' (Help).

設定後、変換開始ボタンをクリックすると変換が開始されます。変換中は変換中ダイアログが表示されます。変換中ダイアログが閉じられれば変換終了です。変換が終了すると設定内容に従った DocuWorks ファイルが作成されます。終了ボタンをクリックすれば設定内容は保存されます。キャンセルボタンをクリックすれば設定内容を破棄して終了します。

・ GUI からの操作

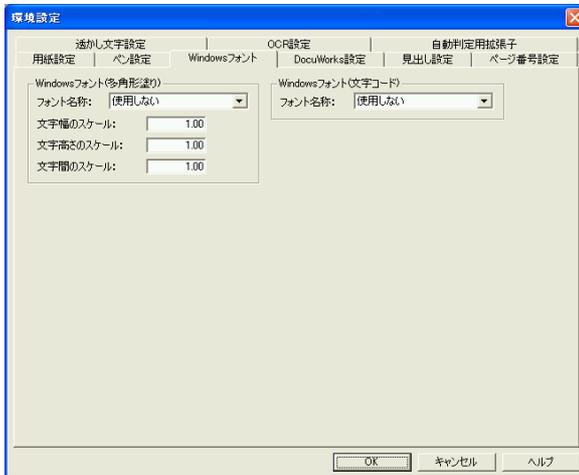
プログラムを起動すると上記 GUI が表示されます。変換に必要な情報を設定していきます。右側の環境設定ボタンをクリックすると「スケール」、「線幅」、「文字フォント」、「OCR 設定」、「セキュリティ」、「自己解凍形式」等の設定を行うことができます。



＜用紙設定画面＞



＜ペン設定画面＞



＜Windows フォント設定画面＞



＜DocuWorks 設定画面＞



＜見出し設定画面＞



＜ページ番号設定画面＞



〈透かし文字設定画面〉



〈OCR 設定画面〉

コマンドライン操作方法

通常のコマンドと同じようにコマンドラインから実行すること、バッチファイルやシェルスクリプトに組み込むことができます。Windows の場合は、「コマンドプロンプト」で DOS ウィンドウを開いて、その中で実行します。変換時にオプションを指定すること、属性データ変換パラメータファイルの内容を変更することでさまざまな変換処理が可能となります。

[操作例]

PLOT2XDW を使用して HP-GL/2 ファイル「sample.h2」を DocuWorks ファイル「sample.xdw」に変換する場合は以下のように入力して変換します。-o は出力ファイル名を指定するオプションです。

```
A> PLOT2XDW sample.h2 -Osample.xdw -Zxdw_out.atr -[他のオプション]
```

PLOT2XDW を使用して OFI ファイル「sample.ofi」を DocuWorks ファイル「sample.xdw」に変換する場合は以下のように入力して変換します。-o は出力ファイル名を指定するオプションです。

```
A> PLOT2XDW sample.ofi -Osample.xdw -Zxdw_out.atr -[他のオプション]
```

オプション

- A : -P で指定された用紙サイズに元データの縦横比を保ってスケールリングします。
- AJ : 入力データの大きさが指定された用紙サイズより小さい場合は、そのまま出力し、大きい場合は、自動的に用紙サイズにあわせて縮小スケールリングします。
- AL : 用紙サイズにあわせてセンタリングを行います。
- AP : 元データのサイズにあわせて自動的に用紙サイズを選択します。
- APPEND[filename] : 出力ファイルに添付するファイルのリストを記述したテキストファイル名を指定します。例えば、「-APPEND inst.txt」と入力すると、inst.txt に記述されているファイルを出力ファイルに添付します。
- AR : 出力時のイメージデータの向きが、入力データの向き(縦/横)にかかわらず一定方向になるように、自動的に回転します。
- DIR : フォルダの一括変換を行います。入力フォルダと-O で出力フォルダを指定します。
- EM[mail_file] : メール定義ファイル mail_file の内容に従って変換結果をメールで送信します。
- LOG[log_file] : ログファイル名(初期値:標準出力)
- M : 出力ファイルとして既存のファイルを指定すると、出力ファイルの最後に新しいページとして追加します。それ以外の場合は、シングルページファイルとして新規に作成されます。
(例)

```
> PLOT2XDW a.hp2 -Om.xdw  
> PLOT2XDW b.hp2 -Om.xdw -M  
> PLOT2XDW c.hp2 -Om.xdw -M
```

以上の操作で 3 ファイル(a.hp2, b.hp2, c.hp2) が 1 つの DocuWorks ファイル(m.xdw)になります。

-MFILE[column] : 入力マルチページファイルの場合、ページごとに分割して出力します。各出力ファイル名は、指定した出力ファイル名に番号を付加したものになります。
(例) 入力データが3ページを持つ場合、

```
> PLOT2XDW in_data -Ow.xdw -MFILE
```

入力データ(in_data)は w_1.xdw, w_2.xdw, w_3.xdw を3ファイルに分散して作成されます。
columnを設定すればページ番号に桁数を持たせることができます。

(例) 上記例を column=3 で変換した場合、
出力ファイルのページ番号は w_001.xdw, w_002.xdw, w_003.xdw のように3桁で表されます。

-MAXRIREKI[column] : 履歴ファイルの最大行数を設定します。

-N[page] : 入力マルチページファイルの場合、処理するページを指定します。
page = 0 : 全ページを処理(初期値)
page = 1~ : 指定ページのみ処理

-O[filename] : 変換結果を出力するファイル名を指定します。

-P[paper] : 用紙サイズを用紙名で指定します。
DocuWorks Printer の出力用紙サイズで表示される用紙名を指定します。

-Q : ヘルプメッセージ

-R[degrees] : イメージデータの回転(単位: 度 90、180、270度回転可能)

-RIREKI[rirekifile] : 履歴ファイル名

-S[scale] : スケール値を指定します。

-TX[text_file] : アノテーション定義ファイル text_file の内容に従ってアノテーションを貼り付けます。

-X[x_offset] : X方向のオフセット値(単位: 1/100mm)

-XMLLOG[xmllog_file] : 変換結果をXML形式でログファイルへ出力(追加)します。
同時に表示するためのXSLファイルも作成されます。

-XMLRIREKI[xmlrirekifile] : 変換結果のファイル情報をXML形式で履歴ファイルに出力(追加)します。
同時に表示するためのXSLファイルも作成されます。

-Y[y_offset] : Y方向のオフセット値(単位: 1/100mm)

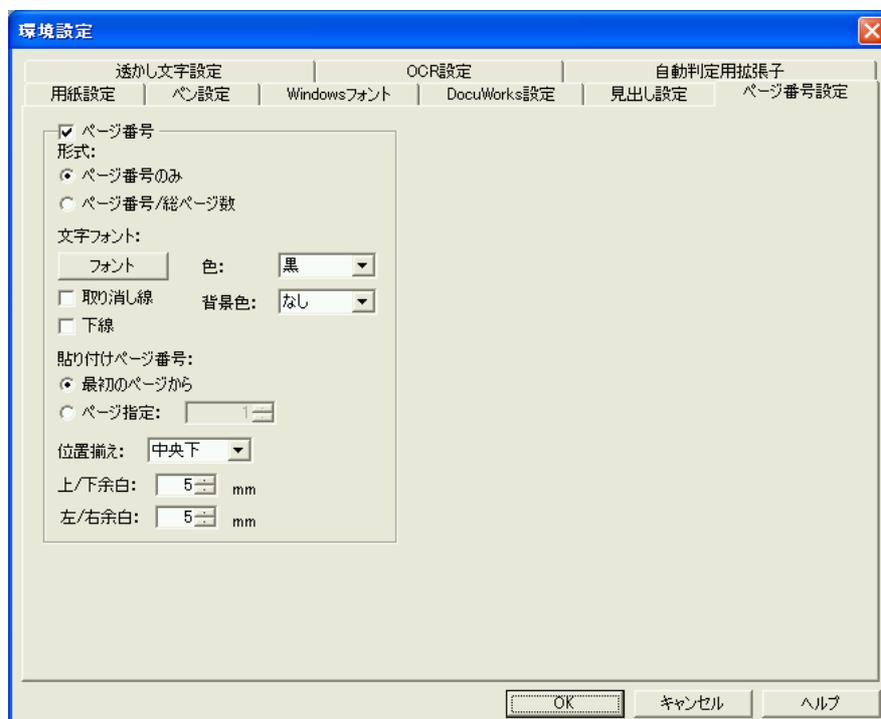
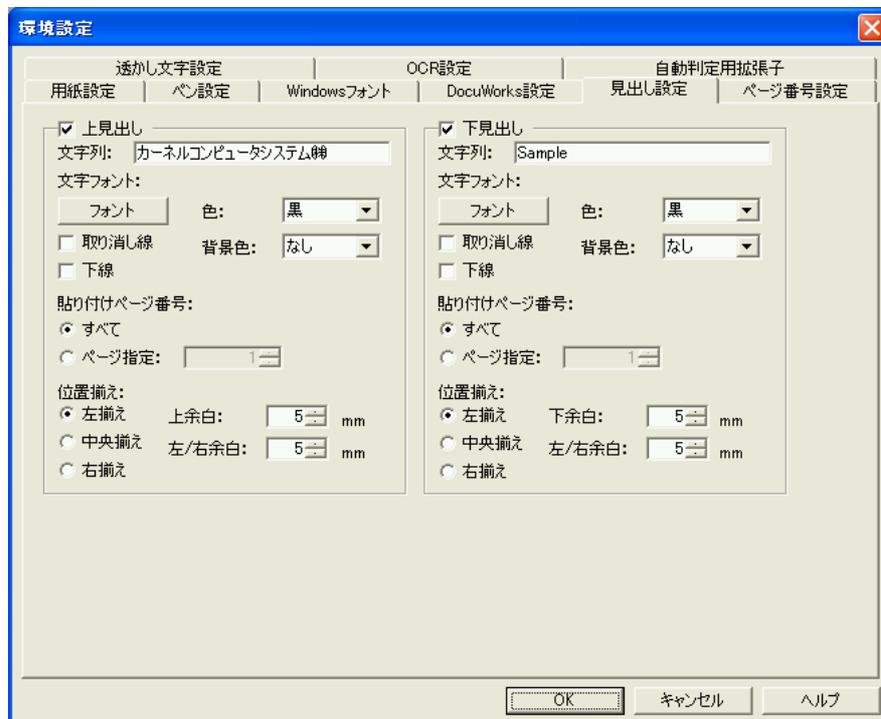
-Z[out_atr_name] : 出力属性ファイル名(初期値: xdw_out_atr)

見出し・ページ番号について

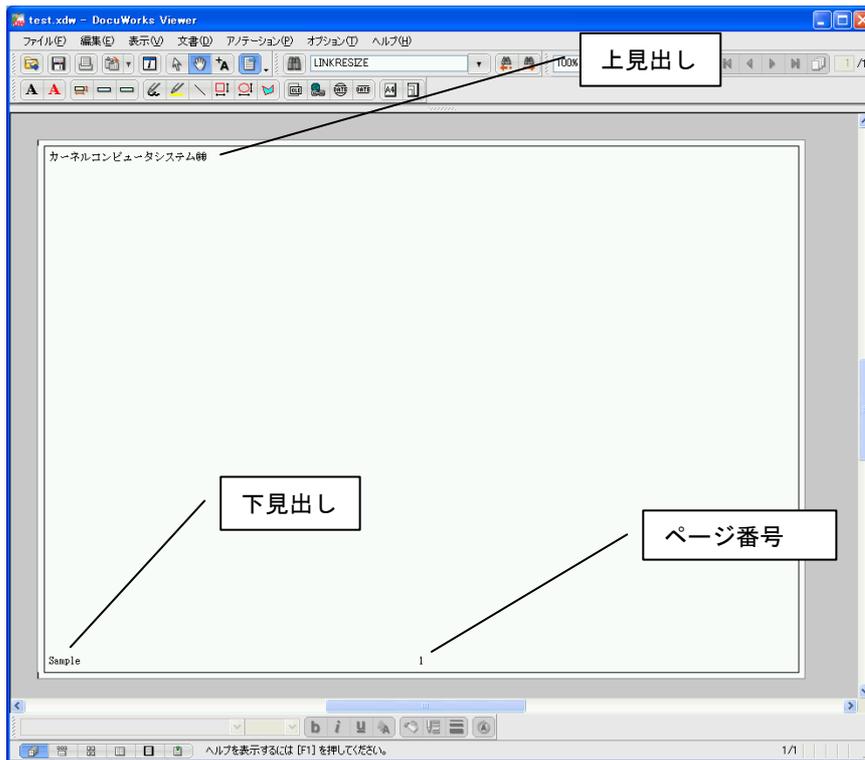
見出し・ページ番号設定を使って、変換結果ファイルに上見出し、下見出し、ページ番号を付加することができます。

PL0T2XDWの「環境設定」－「見出し設定」または「ページ番号設定」画面から設定を行います。

<設定例>



・見出し・ページ番号の実行例



アノテーション貼り付けについて

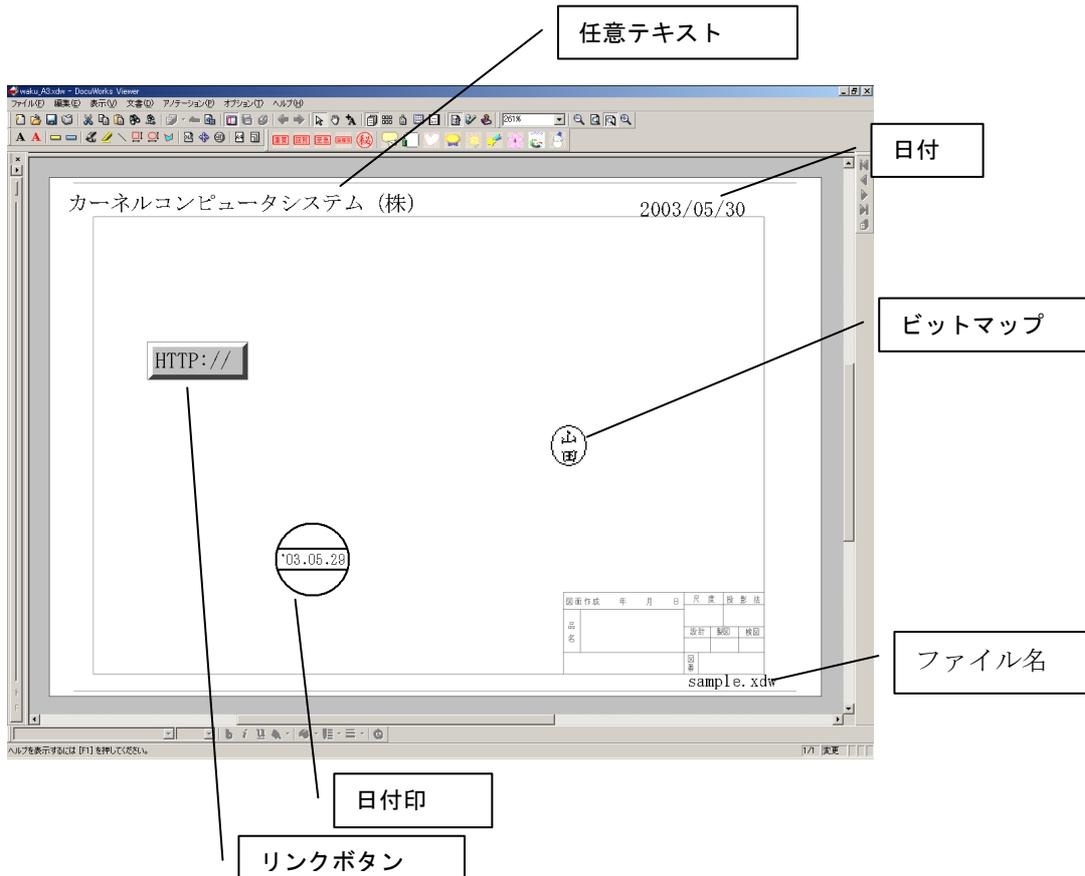
アノテーション定義ファイルを使って、変換結果ファイルに複数のアノテーションを貼り付けることができます。

-TX[text_file] : 貼り付ける内容を記述したアノテーション定義ファイルを-TX オプションで指定して実行します。

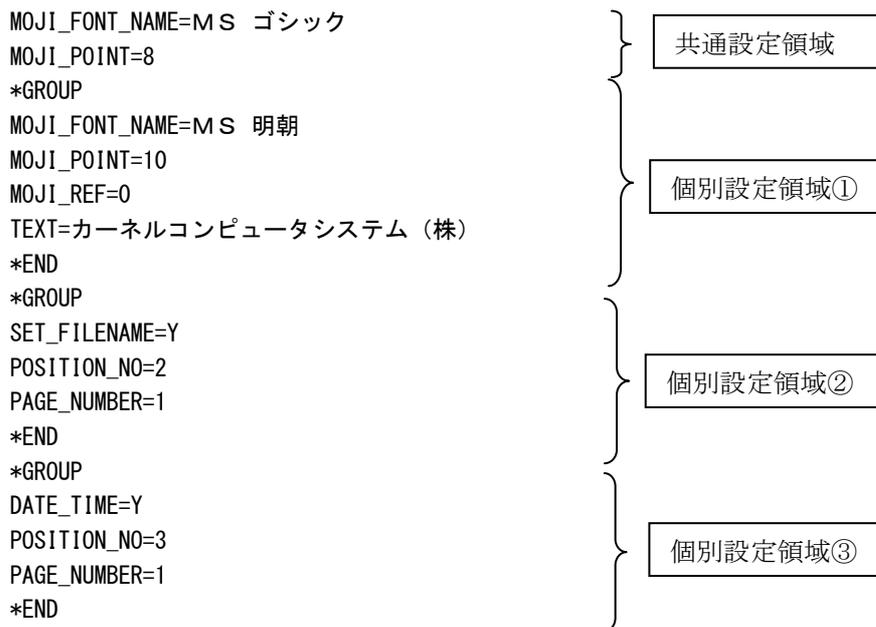
- ・アノテーション貼り付け処理を実行するコマンドライン
(各変換処理のログを残す場合は、-RIREKI オプションも指定します。)

> PLOT2XDW 入力ファイル名 -O 出力ファイル名 -TX アノテーション定義ファイル名 [-RIREKI 履歴ファイル名]

- ・アノテーションの貼り付け例



・アノテーション定義ファイルサンプル



共通設定領域でデフォルトの文字フォントと文字サイズを指定しています。

個別設定領域①では `MOJI_FONT_NAME` と `MOJI_POINT` を設定してデフォルトの文字フォント、サイズとは違った設定で「カーネルコンピュータシステム (株)」を右上に貼り付けるように設定しています。

「`MOJI_REF=0`」でテキストアノテーションの原点を左上に設定することにより、(0, 0)の位置に貼り付けても用紙外に出ないようにしています。アノテーションの原点の初期値は左下なので(0, 0)だと用紙外になってしまいます。

個別設定領域②では「`SET_FILENAME=Y`」と「`POSITION_NO=2`」の設定で出力ファイル名を右下に貼り付けるように設定しています。

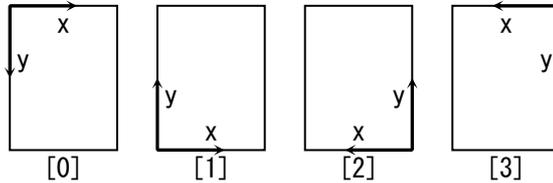
「`PAGE_NUMBER=1`」を設定することにより最初のページのみに貼り付けを行うように設定しています。

個別設定領域③では「`DATE_TIME=Y`」と「`POSITION_NO=3`」の設定で日付を右上に貼り付けるように設定しています。

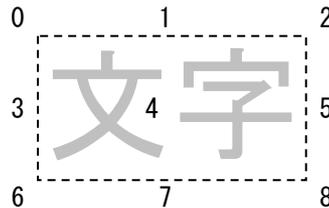
「`PAGE_NUMBER=1`」を設定することにより最初のページのみに貼り付けを行うように設定しています。

・アノテーション定義ファイルのパラメータの説明

*GROUP 個別設定領域の開始
 *END 個別設定領域の終了
 ORG_X アノテーションの貼り付け位置 X を指定します。
 ORG_Y アノテーションの貼り付け位置 Y を指定します。
 MOJI_ORG 用紙の原点を指定します。



MOJI_REF アノテーションの原点を指定します。



PAGE_NUMBER アノテーションを貼り付けるページ番号を指定します。
 ATN_MODE 貼り付けるアノテーションの種類を指定します。
 MOJI_FONT_NAME 文字フォント名称を指定します。
 MOJI_RIGHT 太文字フォントを指定します。
 MOJI_ITALIC 斜体文字を指定します。
 MOJI_UNDERLINE 文字にアンダーラインを引くように指定します。
 MOJI_STRIKEOUT 文字に取り消し線を引くように指定します。
 MOJI_POINT 文字のサイズをポイント単位で指定します。
 MOJI_COLOR 文字の色を指定します。
 MOJI_BCOLOR 文字の背景色を指定します。
 MOJI_DIRECTION 文字の横書きか縦書きを指定します。
 MOJI_PATH 文字の回転角度を指定します。
 TEXT 任意テキストの文字列を指定します。
 ATN_BITMAP 貼り付けるビットマップファイル名を指定します。
 ATN_DATECOLOR 日付印の色を指定します。
 ATN_DATESTYLE 日付印の日付表示を自動か手動かに指定します。
 ATN_TOPFIELD1 日付印の上段領域の文字列 1 を指定します。
 ATN_TOPFIELD2 日付印の上段領域の文字列 2 を指定します。
 ATN_BOTTOMFIELD1 日付印の下段領域の文字列 1 を指定します。
 ATN_BOTTOMFIELD2 日付印の下段領域の文字列 2 を指定します。
 ATN_FIRSTCHAR 日付印の日付の最初の文字を指定します。
 ATN_YEARFIELD 日付印の年を指定します。
 ATN_MONTHFIELD 日付印の月を指定します。
 ATN_DAYFIELD 日付印の日を指定します。
 ATN_LINKCAPTION リンクボタンのタイトルを指定します。
 ATN_LINKICON リンクボタンにアイコンを表示するか指定します。
 ATN_LINKINVISIBLE リンクボタンを表示するか指定します。
 ATN_LINKRESIZE リンクボタンのサイズを指定します。
 ATN_LINKTYPE リンクボタンのタイプを指定します。
 ATN_LINKXDWMODE リンクボタンのリンク先の指定方法を指定します。
 ATN_LINKPAGEMODE リンクボタンのリンク先のページ指定方法を指定します。
 ATN_LINKPAGE リンクボタンのリンク先ページ番号を指定します。
 ATN_LINKXDWINXBD リンクボタンのリンク先文書名を指定します。
 ATN_LINKANNO リンクボタンのリンク先リンクアノテーション名を指定します。
 ATN_LINKXDW リンクボタンのリンク先 DocuWorks ファイル名を指定します。
 ATN_LINKURL リンクボタンのリンク先 URL を指定します。
 ATN_LINKOTHER リンクボタンのリンク先ファイル名を指定します。
 ATN_LINKMAIL リンクボタンのリンク先メールアドレスを指定します。
 SET_FILENAME ファイル名を自動割り付けするかどうかを指定します。
 DATE_TIME 日付を自動割り付けするかどうかを指定します。

POSITION_NO

ページ番号、ファイル名、日付の自動割り付け位置を指定します。

0	7	3
4		6
1	5	2

PAGE_START_NO
PRINT_MODE
DATE_MODE

ページ番号の自動割り付けを開始するページ番号を指定します。
ページ番号のフォーマットを指定します。
日付のフォーマットを指定します。

属性データ変換パラメータファイル

属性データ変換パラメータファイルは入力フォーマットごとに以下のような属性ファイルがあり、これらの内容を変更することでさまざまな変換が可能となります。

DXF 入力データ用..... dxf_in. atr
DWG 入力データ用..... dwg_in. atr
HP-GL 入力データ用..... hpgl_in. atr
HP-GL/2 入力データ用..... hp2_in. atr
OFI 入力データ用..... ofi_in. atr
DocuWorks 出力データ用..... xdw_out. atr

■ DXF 入力属性データ変換パラメータ

IN_VERSION : 入力データフォーマットを変更
IN_SYMWD, INSYMHT : 入力データの文字高さ、文字幅を倍尺で指定
CHGCOLOR : 入力 DXF の色番号を変更
DXF_TEXT_OUT : AutoCAD が持っている文字フォント名称を利用して文字パターン生成時の設定
MOJI_WIDTH_MODE : DXF データの中の文字フォント名称によって文字幅を固定か可変の設定
CLIP_EXTMIN_MAX : DXF データを指定範囲でのクリップ設定
WINDOWS_FONT_HT : WINDOWS フォントの高さを入力データの文字高に対して調整 ※
WINDOWS_FONT_WD : WINDOWS フォントの幅を入力データの文字幅に対して調整 ※
WINDOWS_FONT_SP : 文字と文字の間隔を任意に指定 ※
※DXF_TEXT_OUT=V、WINDOWS_FONT_OUT=Y パラメータ入力時のみ有効

・ DXF 入力データ用データ変換属性パラメータファイルのサンプル (dxf_in. atr)

```
##### dxf_in. atr #####  
# dxf version(ANY, R12J, R13J, R14J, 2000)  
IN_VERSION=ANY  
#IN_VERSION=R12J  
#IN_VERSION=R13J  
#IN_VERSION=R14J  
#IN_VERSION=2000  
# symbol_height_scale  
IN_SYMHT = 1.0  
# symbol_width_scale  
IN_SYMWD = 1.0  
# change color mode (Y(default), N)  
#CHGCOLOR_MODE = Y  
# change color no.  
CHGCOLOR = (C1=1, C2=2, C3=3, C4=4, C5=5, C6=6, C7=7, C8=8)  
CHGCOLOR = (C9=9, C10=10, C11=11, C12=12, C13=13, C14=14, C15=15, C16=16)  
# kanji code (SJIS, EUC)  
KANJI_CODE = SJIS  
#KANJI_CODE = EUC  
# text out (O:code out, V:vector font)  
#DXF_TEXT_OUT = V  
#DXF_TEXT_OUT = O  
# gaiji font directory (only use DXF_TEXT_OUT=V)  
#GAIJI_FILE_DIR = .  
# parts convert (Y=yes(Printer/Plotter/Raster), N=no(default) (CAD))  
DATA_EXPAND = Y  
# moji_width input mode (F:fix, V:variable(default))  
MOJI_WIDTH_MODE = V  
# CLIP MODE (Y:ON N:OFF(default))  
#CLIP_EXTMIN_MAX=Y  
# CLIP AREA (if CLIP_EXTMIN_MAX=Y)  
#EXTMIN_X = 300.0  
#EXTMIN_Y = 400.0  
#EXTMAX_X = 697.0  
#EXTMAX_Y = 610.0  
#WINDOWS_FONT_OUT=Y  
#true Type Font (Height_scale, Width_scale, moji_space)  
#WINDOWS_FONT_HT=1.0  
#WINDOWS_FONT_WD=1.3  
#WINDOWS_FONT_SP=0.5  
#####end dxf_in. atr#####
```

■ DWG 入力属性データ変換パラメータ

IN_VERSION	: 入力データフォーマットを変更
IN_SYMWD, INSYMHT	: 入力データの文字高さ、文字幅を倍尺で指定
CHGCOLOR	: 入力 DWG の色番号を変更
DWG_TEXT_OUT	: AutoCAD が持っている文字フォント名称を利用して文字パターン生成時の設定
MOJI_WIDTH_MODE	: DWG データの中の文字フォント名称によって文字幅を固定か可変の設定
CLIP_EXTMIN_MAX	: DWG データを指定範囲でのクリップ設定
WINDOWS_FONT_HT	: WINDOWS フォントの高さを入力データの文字高に対して調整 ※
WINDOWS_FONT_WD	: WINDOWS フォントの幅を入力データの文字幅に対して調整 ※
WINDOWS_FONT_SP	: 文字と文字の間隔を任意に指定 ※

※DWG_TEXT_OUT=V、WINDOWS_FONT_OUT=Y パラメータ入力時のみ有効

・ DWG 入力データ用データ変換属性パラメータファイルのサンプル (dwg_in.atr)

```
#####dwg_in.atr#####
# DWG version(ANY, R12J, R13J, R14J, 2000)
IN_VERSION=ANY
#IN_VERSION=R12J
#IN_VERSION=R13J
#IN_VERSION=R14J
#IN_VERSION=2000
# symbol_height_scale
IN_SYMHT = 1.0
# symbol_width_scale
IN_SYMWD = 1.0
# change color mode (Y(default),N)
#CHGCOLOR_MODE = Y
# change color no.
CHGCOLOR = (C1=1, C2=2, C3=3, C4=4, C5=5, C6=6, C7=7, C8=8)
CHGCOLOR = (C9=9, C10=10, C11=11, C12=12, C13=13, C14=14, C15=15, C16=16)
# kanji code(SJIS, EUC)
KANJI_CODE = SJIS
#KANJI_CODE = EUC
# text out(O:code out , V:vecter font)
#DWG_TEXT_OUT = V
#DWG_TEXT_OUT = O
# gaiji font directory(only use DWG_TEXT_OUT=V)
#GAIJI_FILE_DIR = .
# parts convert (Y=yes(Printer/Plotter/Raster), N=no(default)(CAD))
DATA_EXPAND = Y
# moji_width input mode (F:fix,V:variable(default))
MOJI_WIDTH_MODE = V
# CLIP MODE (Y:ON N:OFF(default))
#CLIP_EXTMIN_MAX=Y
# CLIP AREA(if CLIP_EXTMIN_MAX=Y)
#EXTMIN_X = 300.0
#EXTMIN_Y = 400.0
#EXTMAX_X = 697.0
#EXTMAX_Y = 610.0
#WINDOWS_FONT_OUT=Y
#true Type Font(Height_scale,Width_scale,moji_space)
#WINDOWS_FONT_HT=1.0
#WINDOWS_FONT_WD=1.3
#WINDOWS_FONT_SP=0.5
#####end dwg_in.atr#####
```

■ HP-GL、HP-GL/2 入力属性データ変換パラメータ

IN_VERSION : 入力データフォーマットを変更
IN_SYMWD : 入力データの文字高さ、文字幅を倍尺で指定
PENCOLOR : 入力 HP-GL、又は HP-GL/2 データのペン番号と色番号を変更

- ・ HP-GL 入力データ用データ変換属性パラメータファイルのサンプル (hpgl_in.atr)

```
##### hpgl_in.atr #####  
#HP plotter model no. (HP7475A, HP7550A, HP7580X (HP7580A, HP7585A))  
# HP7590X (HP7595X, HP7596X)  
#IN_VERSION=HP7475A  
#IN_VERSION=HP7550A  
IN_VERSION=HP7580X  
#IN_VERSION=HP7590X  
#pen & line_color table  
PENCOLOR=(P1=1, P2=2, P3=3, P4=4, P5=5, P6=6, P7=7, P8=8)  
#symbol_height_scale  
IN_SYMHT = 1.0  
#symbol_width_scale  
IN_SYMWD = 1.0  
#pen & layer table (DXF_OUT, IGES_OUT)  
PENLAYER=(P1=L1, P2=L2, P3=L3, P4=L4, P5=L5, P6=L6, P7=L7, P8=L8)  
# paper feed (Y:yes , N:no) for SP0; or SP; command  
SP_PAPERFEED = N  
# coordinates origin point (0:ignore(Default) , 1:available)  
#GENTEN_MODE = 1  
##### end hpgl_in.atr #####
```

- ・ HP-GL/2 入力データ用データ変換属性パラメータファイルのサンプル (hp2_in.atr)

```
##### hp2_in.atr #####  
#HP plotter model no. (HP-GL/2, HP7475A, HP7550A, HP7580X (HP7580A, HP7585A))  
# HP7590X (HP7595X, HP7596X)  
IN_VERSION=HP-GL/2  
#IN_VERSION=HP7580X  
#IN_VERSION=HP7590X  
#pen & line_color table  
PENCOLOR=(P1=1, P2=2, P3=3, P4=4, P5=5, P6=6, P7=7, P8=8)  
#symbol_height_scale  
IN_SYMHT = 1.0  
#symbol_width_scale  
IN_SYMWD = 1.0  
#pen & layer table (DXF_OUT, IGES_OUT)  
#PENLAYER=(P1=L1, P2=L2, P3=L3, P4=L4, P5=L5, P6=L6, P7=L7, P8=L8)  
#SP paper feed mode (Y:paper feed N:not pen)  
SP_PAPERFEED = N  
# coordinates origin point (0:ignore(default) , 1:available)  
#GENTEN_MODE = 1  
#fill mode (0:output fill(dafault) , -1:input fill , -2:not fill)  
#FILL_MODE = 0  
##### end hp2_in.atr #####
```

■ OFI 入力属性データ変換パラメータ

HML_COLOR : 入力 OFI データの線幅 (HML) に対する色番号を変更
HML_LINEWIDTH : 入力 OFI データの線幅値を出力側の線幅値にする。
SYMBOL_LINEWIDTH : 入力データの中の文字描画の線幅を変更

```
##### ofi_in.atr #####  
# pen & line_color table  
PENCOLOR_(P1=1, P2=2, P3=3, P4=4, P5=5, P6=6, P7=7, P8=8)  
# symbol height_scale (default 1.0)  
IN_SYMHT = 1.0  
# symbol width_scale (default 1.0)  
IN_SYMWD = 1.0  
# fill pattern mode (0:output_fill, -1:input_fill (default), -2:fill_off)  
# FILL_MODE = -1  
# pen width/color table (H, M, L→color)  
HML_COLOR=(H=1, M=2, L=3)  
#pen width  
HML_LINEWIDTH=(H=0.5, M=0.3, L=0.1)  
##### end ofi_in.atr #####
```

■ DocuWorks 出力属性データ変換パラメータ

パラメータ	説明
ATR_LINEWIDTH = X(Y or N)	COLORWIDTH 有効無効設定 Y:有効 N:無効
COLORRGB = (C1=R, G, B, ……Cn=R, G, B)	ペン番号に対する線色設定 n:1~256 R, G, B:0~1000
COLORWIDTH = (C1=w1, C2=w2…Cn=wn)	ペン番号に対する線幅設定 n:1~256 w:0.01~20.00 (単位: mm)
EXT_HPGL2 = (ext1, ext2, …ext8)	HP-GL/2 認識用拡張子の設定 最大 8 個の拡張子を設定できます。
EXT_HPGL = (ext1, ext2, …ext8)	HP-GL 認識用拡張子の設定 最大 8 個の拡張子を設定できます。
EXT_OFI = (ext1, ext2, …ext8)	OFI 認識用拡張子の設定 最大 8 個の拡張子を設定できます。
INSERT_ORGFILE = X(Y or N)	入力ファイルの添付設定 Y:入力ファイルを変換した DocuWorks 文書に添付します。 N:入力ファイルを添付しない。
MOJICODE_WINDOWS_FONT = "font_name"	Windows フォント名称を設定します。 入力データの文字データを設定された Windows フォントで文字コードとして DocuWorks に出力します。 DocuWorks の文字検索が可能になります。 WINDOWS_FONT を設定している場合は無効になります。 MOJICODE_WINDOWS_FONT、WINDOWS_FONT 両方とも設定していない場合、文字は線分解されて出力されます。 Windows フォント名称は必ず「」で囲んでください。 使用できる Windows フォント名称はマシン内にインストールされている必要があります。 例： "Times New Roman" "MS 明朝" "MS ゴシック" ※マシン内にインストールされていても使用できない場合がありますのでご了承ください。
PAPER_X_LIMITS = X.XX PAPER_Y_LIMITS = X.XX	用紙選択時の猶予値を設定します。 定型サイズ+設定値のサイズまでをその用紙サイズとします。 単位: mm
SFX_DOCUMENT = Y or N	自己解凍形式の出力を行うかどうか設定 (DocuWork9 は不可) Y:行う N:行わない(default)
WAIT = XXXX	DocuWorks 変換時のタイムアウト時間を設定します。 設定時間を過ぎても変換が終了しない場合はタイムアウトエラーになります。 単位: 秒
WINDOW_FONT = "font_name"	Window フォント名称を設定します。 入力データの文字データを設定された Windows フォントに従って多角形の塗りで出力します。 DocuWorks の文字検索はできません。 MOJICODE_WINDOWS_FONT よりも優先されます。 MOJICODE_WINDOWS_FONT、WINDOWS_FONT 両方とも設定していない場合、文字は線分解されて出力されます。 Windows フォント名称は必ず「」で囲んでください。 使用できる Windows フォント名称はマシン内にインストールされている必要があります。 例： "Times New Roman" "MS 明朝" "MS ゴシック" ※マシン内にインストールされていても使用できない場合がありますのでご了承ください。
WINDOW_FONT_HT = height_scale	文字高さのスケール値を設定します。 WINDOWS_FONT 設定時にのみ有効。
WINDOW_FONT_SP = space_scale	文字間のスケール値を設定します。 WINDOWS_FONT 設定時にのみ有効。
WINDOW_FONT_WD = width_scale	文字幅のスケール値を設定します。 WINDOWS_FONT 設定時にのみ有効。

XDW_SECURITY = 予約したコード XDW_OPEN_PWD = Open Password XDW_FULL_PWD = Full Access Password	予約したコード：作成した XDW データにセキュリティを設定予約したコード、セキュリティの権限を指定します (詳細コード値はこの一覧表の次) Open Password：「開く」パスワード(初期値：無し) Full Access Password：セキュリティアクセスパスワード(初期値：無し)
OUT_FORMAT = 0~3	OCR 処理を行うかどうかを設定します。(DocuWork9 は不可) 0：OCR 処理を行わない 1：OCR 処理を行い DocuWorks ファイルに反映 2：OCR 処理を行い DocuWorks ファイルに反映と OCR 結果をテキストファイルに出力 3：OCR 処理を行い OCR 結果をテキストファイルに出力。DocuWorks ファイルは作成しない。

XDW_SECURITY パラメータの説明：

XDW_SECURITY は次に示したコードを予約しています、予約したコードを指定し、セキュリティの権限を決めます。複数のコードを組み合わせて使用することも可能です。

※セキュリティ機能を使用する場合は、DocuWorks5 以上がインストールされている必要があります。

コード	セキュリティの権限 (許可する以外は保護されます)
0	全て禁止
2	文書の編集を許可
4	アノテーションの編集を許可
8	印刷を許可
16	転記を許可

XDW_OPEN_PWD パラメータの説明：

「開く」パスワードとは変換した DocuWorks 文書を開くときのパスワードのことです。

XDW_FULL_PWD パラメータの説明：

フルアクセスパスワードとはセキュリティ設定を無効・変更するときのパスワードのことです。

パスワード設定の規則：

- ・使用できる文字は半角英数字で、大文字・小文字は区別して扱います。
- ・パスワードは 255 文字以内で設定します。
- ・パスワードの先頭と最後に空白文字は設定できません。
- ・パスワードの途中であれば空白文字は設定できます。

セキュリティ設定の規則：

- ・XDW_SECURITY を設定していない場合は全て許可になります。
- ・XDW_SECURITY=0 を設定した場合はそれ以前に許可設定を行っていても全て禁止になります。
- ・XDW_SECURITY を設定して XDW_FULL_PWD を設定しない場合は、セキュリティ設定の無効・変更時にパスワード入力を要求されません。
(開いた時点では設定したセキュリティが有効になっています)
- ・XDW_FULL_PWD を設定して XDW_SECURITY を設定しない場合は、セキュリティ設定の無効・変更時にパスワード入力を要求されます。(開いた時点では全て許可になっています)

セキュリティ設定例 1

XDW_SECURITY=4 : アノテーションの編集と
XDW_SECURITY=8 : 印刷を許可する。
XDW_OPEN_PWD= : 「開く」パスワードを使用しない。
XDW_FULL_PWD=Full : セキュリティの無効・変更パスワードを Full にします。

セキュリティ設定例 2

XDW_SECURITY=4 : アノテーションの編集と
XDW_SECURITY=8 : 印刷を許可するに設定しているが
XDW_SECURITY=0 : 最後に全て禁止を設定しているので全て禁止になります。
XDW_OPEN_PWD= : 「開く」パスワードを使用しない。
XDW_FULL_PWD=Full : セキュリティの無効・変更パスワードを Full にします。

セキュリティ設定例 3

XDW_SECURITY=4 : アノテーションの編集と
XDW_SECURITY=8 : 印刷を許可する。
XDW_OPEN_PWD= Open : 「開く」パスワードを Open にします。
XDW_FULL_PWD=Full Access : セキュリティの無効・変更パスワードを Full Access にします。

DocuWorks 出力属性ファイルのサンプル(xdw_out.atr)

```
#####xdw_out.atr#####
# paper_size overflow limits (default=5[mm])
PAPER_X_LIMITS = 0.0
PAPER_Y_LIMITS = 0.0
#HPGL
EXT_HPGL=(hp, gl, -, -, -, -, -)
#HPGL2
EXT_HPGL2=(hp2, rtl, plt, gl2, -, -, -, -)
#OFI
EXT_OFI=(OFI, -, -, -, -, -, -)
#pen width mode setting(Y:COLORWIDTH,N:data size)
ATR_LINEWIDTH=N
#pen width setting(max256)
#COLORWIDTH=(C1=0.01,C2=0.02,C3=0.03,C4=0.04,C5=0.05,C6=0.06,C7=0.07)
#pen color setting(max256)
#COLORRGB=(C1=0,0,0,C2=1000,0,0,C3=0,1000,0,C4=0,0,1000,C5=1000,0,1000)
#DocuWorks security access password (default : null)
#XDW_FULL_PWD=
# security (0(default):off , 2,4,8,16:security code)
#XDW_SECURITY = 0
#DocuWorks open password (default : null)
#XDW_OPEN_PWD =
#insert original file (Y:on , N(default):off)
#INSERT_ORGFILE=N
#SFX Document (N:off(default) , Y:on)
#SFX_DOCUMENT = Y
#Windows Font Name (Character Code Out)
#MOJICODE_WINDOWS_FONT = "MS 明朝"
#Windows Font Name (Polygon Out)
#WINDOWS_FONT = "Sencury"
#Character Height Scale (WINDOWS_FONT Only)
#WINDOWS_FONT_HT = 1.0
#Character Space Scale (WINDOWS_FONT Only)
#WINDOWS_FONT_SP = 1.0
#Character Width Scale (WINDOWS_FONT Only)
#WINDOWS_FONT_WD = 1.0
#Convert TimeOut (UNIT:Second)
WAIT = 300
#OCR Mode (0:off(default) , 1:only OCR , 2:OCR & text out , 3:text out)
#OUT_FORMAT=0
#OCR Noise Reduction (0:off(default) , 1:normal , 2:weak , 3:strong)
#OCR_NOISE=0
#OCR Language (0:auto(default) , 1:Japanese , 2:English)
#OCR_LANGUAGE=0
#OCR Insert space(0:off(default) , 1:on)
#OCR_INSERTSPACE=0
#OCR Japanese Process(0:off , 1:on(default))
#OCR_JAPANESE=1
#OCR Form(0:auto(default) , 1:table , 2:writing)
#OCR_FORM=0
#OCR Column(0:auto(default) , 1:H-single , 2:H-multi,3:V-single, 4:V-multi)
#OCR_COLUMN=0
#OCR AutoDeskew (0:off , 1:on(default))
#OCR_AUTODESKEW=1
#OCR Priority (0:speed(default) , 1:Recognition rate)
#OCR_PRIORITY=0
#OCR Page (0-)
#OCR_PAGE=0
#####end xdw_out.atr#####
(注) 先頭行が#の行は、コメントになります。
```

■ メール送信用環境設定パラメータファイル

パラメータ	説明
SERVER = メール送信先の SMTP サーバー名	メール送信先の SMTP サーバー名の文字列は最大 512 文字の英数字と".","-","_"が使用可能です。
ADDRESSn = メール送信先のアドレス	メール送信先のアドレスの文字列は最大 512 文字の英数字と".","-","_","@"が使用可能です。 n: 送信先番号(1~10)
SEND = 送信元メールアドレス	送信元メールアドレスの文字列は最大 512 文字の英数字と".","-","_","@"が使用可能です。
ATTACH_FILE = メールに添付するファイル名	"*"が指定された場合は出力ファイル名で添付します。
MSG_FILE = 添付するメッセージファイル名	メッセージファイル名は指定されていないと添付されません。
ATTACH_FLGn = X (0, 1, 2, 4, 8)	添付するファイルの種類を設定 0: 添付しない(default) 1: 出力ファイル 2: ログファイル 4: XML 形式のログファイル 8: メッセージファイル 複数のファイルを指定する場合は設定値の加算値を設定します。 ログファイル、XML 形式のログファイルを添付する場合は、変換時に-LOG、-XMLLOG オプションを指定する必要があります。 n: 送信先番号(1~10)
ATTACH_COMP_FLGn = X (0 or 1)	添付ファイルの圧縮を設定 0: 圧縮しません(default) 1: 圧縮します n: 送信先番号(1~10)
MSG_COMP_FLG = X (0 or 1)	添付するメッセージファイルの圧縮を設定 0: 圧縮しません(default) 1: 圧縮します
OUT_DEL_FLG = X (0 or 1)	変換されたファイル(-0 オプションで指定)の削除方法を設定 0: メール送信後削除しません(default) 1: メール送信後削除します
EML_TITLE = 送信メールの件名	送信メールの件名を設定 初期値は"変換結果"です。

● 注意事項

- ・ 1 回で最大 10 箇所までメール送信先 (ADDRESS) の指定が可能となっています。
従って、パラメータの ADDRESS、ATTACH_FLG、ATTACH_COMP_FLG には送信先番号 (1 ~ 10) を送信する件数分をそれぞれのパラメータに指定する必要があります。
送信先が 1 つであっても番号 (1) を指定してください。

メール送信用環境設定パラメータファイルのサンプル

```
変換結果のみをメール送信する場合
##### eml_out.atr #####
# SERVER HOST NAME
SERVER = MailServer
# SEND E-MAIL ADDRESS
ADDRESS1 = person1@mailserver
ADDRESS2 = person2@mailserver
# SENDER
SEND = person@mailserver
# MESSAGE FILE NAME
#MSG_FILE = sample.txt
# THE APPEND FILE NAME
#ATTACH_FILE = test.dat
# APPEND FILE SEND FLAG #
ATTACH_FLG1 = 0
ATTACH_FLG2 = 0
# APPEND FILE COMPRESSION FLAG #
#ATTACH_COMP_FLG1 = 0
#ATTACH_COMP_FLG2 = 0
# OUTPUT FILE DELETE FLG #
#OUT_DEL_FLG = 0
# E-mail TITLE #
EML_TITLE = 変換結果
##### eml_out.atr #####
```

```
変換結果と変換されたファイルを添付してメール送信する場合
##### eml_out.atr #####
# SERVER HOST NAME
SERVER = MailServer
# SEND E-MAIL ADDRESS
ADDRESS1 = person1@mailserver
ADDRESS2 = person2@mailserver
# SENDER
SEND = person@mailserver
# MESSAGE FILE NAME
#MSG_FILE = sample.txt
# THE APPEND FILE NAME
ATTACH_FILE = *
# APPEND FILE SEND FLAG #
ATTACH_FLG1 = 1
ATTACH_FLG2 = 1
# APPEND FILE COMPRESSION FLAG #
ATTACH_COMP_FLG1 = 0
ATTACH_COMP_FLG2 = 1
# OUTPUT FILE DELETE FLG #
OUT_DEL_FLG = 0
# E-mail TITLE #
EML_TITLE = 変換結果
##### eml_out.atr #####
```

メール送信用環境設定パラメータファイル(eml_out.atr)

```
#####eml_out.atr#####  
# SERVER HOST NAME  
SERVER = MailServer  
# SEND E-MAIL ADDRESS  
ADDRESS1 = person1@mailserver  
ADDRESS2 = person2@mailserver  
# SENDER  
SEND = person@mailserver  
# MESSAGE FILE NAME  
#MSG_FILE = sample.txt  
# THE APPEND FILE NAME  
#ATTACH_FILE = test.dat  
# APPEND FILE SEND FLAG #  
ATTACH_FLG1 = 0  
ATTACH_FLG2 = 0  
# APPEND FILE COMPRESSION FLAG #  
#ATTACH_COMP_FLG1 = 0  
#ATTACH_COMP_FLG2 = 0  
# OUTPUT FILE DELETE FLG #  
#OUT_DEL_FLG = 0  
# E-mail TITLE #  
EML_TITLE = 変換結果  
#####end xdw_out.atr#####  
(注) 先頭行が#の行は、コメントになります。
```

制限事項

- (1) PLOT2XDW で DocuWorks ファイルを作成する場合は、**DocuWorks Desk** を終了してください。
DocuWorks Desk が起動していると変換に失敗します。
- (2) 次の項目はインストールされている DocuWorks のバージョンによっては使用することができません。

項目	使用可能な DocuWorks バージョン※
128bit パスワード	6.0
圧縮形式の MRC 圧縮	6.0
日本語知識処理	6.x
OCR エンジンの認識精度のレベル	7.0
英語の混在比率	7.0
英数字記号を半角	7.0
日付印アノテーションの幅	7.0
256bit パスワード	8.0

※表にあるバージョンとそれ以降のバージョンで使用可能です。

※日本語知識処理は 6.x までが使用可能です。

※自己解凍形式の出力は 8.x までが使用可能です。

※英語の混在比率は 8.x までが使用可能です。

- (3) DocuWorks9.0.0 がインストールされている環境では OCR 処理を行うことはできません。
- (4) DocuWorks9.0.1 以上がインストールされている環境で OCR 処理を行うには「DocuWorks OCR License」が必要になります。
- (5) ラスターファイルを変換する場合は次の制限が発生します。
 - ① モノクロデータ（2 値）は TIFF-G4 に圧縮されて DocuWorks に変換されます。
 - ② カラーデータで JPEG, TIFF-JPEG は TIFF-JPEG に圧縮されて DocuWorks に変換されます。
 - ③ カラーデータで JPEG, TIFF-JPEG 以外は TIFF-PackBits に圧縮されて DocuWorks に変換されます。
（このため画質変化が発生する可能性があります）
 - ④ カラーデータで DocuWorks6.0 以降の環境の場合は MRC 圧縮が選択できます。ただし、変換するラスターデータによってはこれらの圧縮が適用できない場合があります。（どのような条件かは DocuWorks 内部のことですので解りません。）
その際は次のような圧縮に変更されます。
 - ・ MRC_NORMAL → NORMAL
 - ・ MRC_HIGHQUALITY → HIGHQUALITY
 - ・ MRC_HIGHCOMPRESS → HIGHCOMPRESS
 - ⑤ 幅高さが 65535 以下であること。
 - ⑥ DocuWorks6.0 以下がインストールされている環境ではラスターファイルのサイズ（圧縮前のファイルサイズ）が 250MB 以下であること。
DocuWorks7.0 以上がインストールされている環境ではラスターファイルのサイズ（圧縮前のファイルサイズ）が 1GB 以下であること。

※ ⑤、⑥の制限でエラーになる場合は、用紙設定で「解像度縮小」を OFF にして「ジャストスケール」を行うことや、変換元ラスターファイルの解像度やサイズを変更して小さくすることで変換が可能になることがあります。

・ DXF, DWG 入力時の制限事項について

- ◇ バイナリ形式の DXF フォーマットには対応していません。
- ◇ R12J, R13J, R14J, AC2000, AC2000i や AC2002 等の AC2000 と同等のフォーマットをサポートします。AutoCAD2004 以降で作成されたファイル(2000 形式で保存されたものは含みません)は未対応です。
- ◇ 複合図形のデータ展開オン/オフを属性パラメータにより設定できます。
- ◇ 2次元データのみサポートします。3次元データには未対応です。
- ◇ 文字のフォント名称、反転は未対応です。ただし、XY 両方向の同時反転のみ対応します。
- ◇ 特殊文字は未対応です。
- ◇ 度(°)、±、%、直径(φ)、アスキー記号、オーバーライン、アンダーラインは対応可能です。
- ◇ シェイプファイル(拡張子 SHX のフォントファイル)の変換に対応しています。
 - ・シェイプファイルは、変換環境に存在している必要があります。指定されたシェイプファイルが無い場合には、bigfont.shx, txt.shx を使用します。
 - ・シェイプファイルの文字幅/高さの編集はできません。
 - ・サポートしているシェイプファイルは「Unifont1.0, bigfont1.0, shapes1.1」です。
 - ・シェイプファイルを使用した文字列のベクター変換において、文字列傾斜には対応していません。指定されている場合、0度として変換します
- ◇ モデル空間のみの対応となります。ペーパー空間(レイアウト)には未対応です。
- ◇ ポリラインのメッシュ処理は未対応です。ただし、幅付きデータは開始点の線幅を利用します。(ただし、出力フォーマットに依存)
- ◇ 線種パターン長は有効ですが、パターンは出力フォーマットにより、異なる場合があります。
- ◇ ユーザ定義の寸法線は未対応です。
- ◇ 拡張データは未対応です。
- ◇ R13J 以上のコマンドの中で下記コマンドは未対応です。
3DFACE, BODY, OLEFRAME, REGION, 3DSOLID, OLE2FRAME, VIEWPORT
- ◇ R14J 以上のコマンドの中で下記コマンドは未対応です。
IMAGE, ACAD_PROXY_ENTITY
- ◇ OLE 等を使って貼り付けたデータ(MS-WORD, MS-EXCEL 等)は未対応です。
- ◇ HATCH データの島形状処理では、SOLID パターンは最外郭で処理します。それ以外のパターンは2重の島形状まで対応します。
- ◇ 外部参照データについて、イメージファイルのみ可能で、ブロック図形の外部参照は未対応です。
- ◇ RAY, XLINE について、図面範囲の最大/最小で切断し、線分で出力します。
- ◇ 押し出し方向の指定には、対応していません。
- ◇ 円弧の始終角が同一の場合データを削除します。
- ◇ AutoCAD 独自の線種には対応していません。
(BATTING, FENCELINE1, FENCELINE2, GAS LINE, HOT_WATER_SUPPLY, TRACKS, ZIGZAG)
- ◇ MTEXT 以外の文字での制御コード(上線、下線)については対応していません。
- ◇ SPLINE の変換結果は、AutoCAD 画面上に表示される画と、必ずしも一致しません。
- ◇ マルチテキスト(MTEXT)の制限を以下の通りとします。
 - ・文字幅については未対応です。
 - ・文字列の中央揃え、右揃えのときの文字位置は必ずしも正確に一致するとは限りません。
 - ・縦方向の位置あわせは中央に固定して出力します。
 - ・フォントの幅高の違いにより、自動改行の位置や、文字出力位置は必ずしも一致しません。
 - ・上下複数行表記は可能ですが、行間隔には未対応のため、上下の文字位置については、入力データと異なる場合があります。
 - ・縦書きの場合、一行で、かつ一定の条件で書かれたもののみ対応します。
 - ・複数行のときに改行のみの文字列が含まれる場合や分子や分母に文字列が存在しない分数を含んでいる MTEXT の場合は、文字の出力位置が AutoCAD 上の表示位置とは一致しません。
- ◇ AutoCAD で扱うことのできない図形データについては、データを無視して変換します。